

令和5年度 島根県立松江北高等学校 学校評価表（年度末報告書）

教育目標	高い知性と豊かな心情、強い意志を培い、心身ともに健康な人格の形成を目指す。
-------------	--

重点指導目標 1 すべての教科の授業、探究活動、学校行事、生徒会活動、部活動などあらゆる場面を通じて、「読む力」「書く力」「伝える力」を育成する。

評価指標 【肯定的評価の割合 生徒：92.6% 保護者：78.2% 教職員:88.6%】 昨年度【生徒：84.6% 保護者：73.4% 教職員:82.5%】

	令和5年度の取組	評価指標【肯定的評価の割合】	自己評価及び改善策 (○…できている ○…改善が必要な面はあるが概ねできている △…特に改善が必要)	学校運営協議会の評価・意見
授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●授業改善 研究授業の実施 学習評価の研究 ●ICT活用研修 ●「総合的な探究の時間」 教科学習との往還 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒は、授業で扱う内容だけでなく様々な事柄について、興味や関心を抱き、もっと深く知りたい調べたいと思い、自ら考えたり学んでいる。 今年度【生徒：82.9% 保護者：56.9% 教職員：68.2%】 昨年度【生徒：73.5% 保護者：55.5% 教職員：59.6%】 ●生徒は、学校での教科の学習に、意欲的かつ継続的に取り組んでいる。 今年度【生徒：83.3% 保護者：71.2% 教職員：81.8%】 昨年度【生徒：77.9% 保護者：68.8% 教職員：86.0%】 ●生徒は、学校での教科の学習以外の教育的活動に、積極的に取り組んでいる。 今年度【生徒：85.4% 保護者：77.3% 教職員：88.6%】 昨年度【生徒：82.0% 保護者：74.8% 教職員：87.7%】 ●教員は、熱意をもって学習指導をしていますか。 今年度【生徒：94.4% 保護者：82.4% 教職員：93.2%】 昨年度【生徒：88.7% 保護者：79.3% 教職員：93.0%】 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業改善週間の実施とともに「主体的・対話的で深い学び」を実現するための研究授業を実施した。研究授業動画のオンデマンド視聴で共有を図るなどして授業法について研究した。次年度も研究授業や研修会を実施し、授業改善を推進していきたい。一方で、新学習指導要領に基づく学習評価については研究が必要である。教科主任会や研修会を利用して「指導と評価の一体化のための学習評価」の充実を図りたい。 △ICT活用研修を校内で実施した。活用している教員のレベルアップや活用を始めたい教員に活用のきっかけを作ることができた。次年度から全校生徒がICT端末を活用することになる。校外内における情報交換を活発にし、さらなる有効活用を進めたい。 ◎「総合的な探究の時間」の2年生普通科の探究活動をグループから個人へと変更した。このことで学問的な内容を深く掘り下げる生徒が増え、探究活動のレベルアップにつながった。指導体制など工夫を図りさらなる探究活動の充実に努めたい。 ○昨年度同様、進路志望実現のために生徒の主体性を大切にしながら説明会・講演会・希望者制補講を実施した。また、教職員による進路研修会や進路検討会を適宜実施することができた。コンソーシアムで進めている卒業生ネットワークを活用するなどして、キャリア形成プログラムのさらなる充実を図りたい。 ◎「総合的な探究の時間」について、より生徒が自身の生き方ありかたについて考えることができるものへと内容の改編を行った。普通科・理数科ともに生徒自身の学びたいことややってみようことを考える機会が増えた。 ◎文化系の活動の活躍が多く見られた。文化部の多くの部が県予選を突破して令和6年度総文祭へ出場を決めている。また、声楽や読書感想文での全国優勝をはじめとする個人での活躍も多くあった。自主的に様々なコンテストに応募する生徒も増えてきている。さまざまな活動に主体的に取り組む生徒をさらに増やしたい。 △体育系の部活動への入部率の低下が課題である。学習との両立を含め、部活動のあり方について検討していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●主体的・対話的で深い学び、例えばアウトプット型授業などは、思考力や伝える力を高めるものであるが、同時に自分の学びたいものを見つけることにもなりキャリア教育の側面もあり、さらなる授業の充実を図って欲しい。 ●中学校の授業における主体的・協働的な学びが高校の授業では少ないように感じられるので改善が必要である。 ●卒業生ネットワークを活用してのキャリア形成プログラムはうまくいっているようなので継続すべきである。 ●普通科の総合的な探究の時間における個人探究は興味深いテーマが多い、成果が上がっているようなのでさらに充実させて欲しい。
キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●社会人講座・卒業生講話・出前講座 ●進路指導校内研修会 ●志望校別集会 ●主要大学説明会参加 ●オンライン進路講演会 ●希望者補講 ●研修旅行 	<ul style="list-style-type: none"> ●本校の進路指導は適切である。 今年度【生徒：88.6% 保護者：79.1% 教職員：90.9%】 昨年度【生徒：85.2% 保護者：78.5% 教職員：80.7%】 		
課外活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒会活動の活性化 ●部活動の奨励 ●各種研究大会・コンテスト等の参加推奨 ●校外での自主活動プログラムへの参加推奨 			

重点指導目標 2 すべての生徒が、「自分が大切にされている」「失敗しても大丈夫」と実感できる生徒集団、教職員集団をつくる。

評価指標 【肯定的評価の割合 生徒：80.6% 保護者：67.3% 教職員:72.7%】 【生徒：72.7% 保護者：66.1% 教職員:68.4%】

	令和5年度の取組	評価指標	自己評価及び改善策 (○…できている ○…改善が必要な面はあるが概ねできている △…特に改善が必要)	学校運営協議会の評価・意見
人権意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ●人権教育HR ●人権講演会 ●人権教育研修 ●いじめアンケート ●いじめ防止対策委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒は、他人を思いやる心を持って人に接することができている。 今年度【生徒：94.4% 保護者：90.0% 教職員：70.5%】 昨年度【生徒：93.0% 保護者：88.8% 教職員：80.7%】 ●生徒は、多様な価値観を認め、豊かな人間関係を築くことができている。 今年度【生徒：92.4% 保護者：82.9% 教職員：84.1%】 昨年度【生徒：90.7% 保護者：83.2% 教職員：89.5%】 ●生徒は、人権が保障され安心して生活できる学校である。 今年度【生徒：92.4% 保護者：82.9% 教職員：81.8%】 昨年度【生徒：90.1% 保護者：84.4% 教職員：87.7%】 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎年行っている人権講演会やホームルームでの人権教育で生徒の人権意識を高めることができた。また、教職員自身の人権感覚を向上させることができた。生徒の実態把握に努め効果的な年間計画のもと取組を進めていきたい。 ○いじめアンケートを各学期行い、いじめの早期発見に努めることができた。また、アンケート後により迅速な対応ができるよう体制を整えた。次年度も、学校全体の取組としていじめの防止及び発生時の対策にあたるため、いじめ防止対策委員会をしっかりと機能させたい。 ◎担任が個人面談を行ったり心配な生徒に声をかけたりして丁寧な対応を行っている。課題を抱える生徒については、学年会や生徒支援委員会等で生徒の情報を共有、また、SCやSSWとも連携して対応した。今後、校外内との連携を図って対応していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校生活を送る上で心理的安全が必要である。そのことを確認するためにはアンケートでもっと詳細について聞く必要がある。 ●授業において安心して発言することができる雰囲気作りが大切であり、授業の中でそのような関係づくりができることよい。
生徒相談・特別支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●特別支援・生徒支援委員会 ●スクールカウンセラー ●Q Uアンケート ●インクルーシブ教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒は、悩み事や心配事を相談しやすい。 今年度【生徒：65.3% 保護者：60.6% 教職員：65.9%】 昨年度【生徒：61.3% 保護者：60.4% 教職員：66.7%】 		

重点指導目標 3 社会人として期待される挨拶、言葉遣いなどのふるまいを、あたりまえの習慣として自然に行うことができるようにする。

評価指標 【肯定的評価の割合 生徒：87.9% 保護者：67.0% 教職員:52.3%】 昨年度【生徒：81.5% 保護者：67.1% 教職員:56.1%】

	令和5年度の取組	評価指標【肯定的評価の割合】	自己評価及び改善策 (○…できている ○…改善が必要な面はあるが概ねできている △…特に改善が必要)	学校運営協議会の評価・意見
基本的生活習慣の確立 規範意識の定着	<ul style="list-style-type: none"> ●生活時間調査 ●担任による指導（面談等） ●情報モラル講座 ●薬物乱用防止講座 ●交通安全街頭指導 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒は、学校や社会のルールを守ることができている。 今年度【生徒：94.4% 保護者：90.7% 教職員：75.0%】 昨年度【生徒：94.0% 保護者：90.9% 教職員：86.0%】 ●生徒は、他人との関係や集団生活をうまくやっていくことができている。 今年度【生徒：93.3% 保護者：88.2% 教職員：84.1%】 昨年度【生徒：90.4% 保護者：88.8% 教職員：91.2%】 ●本校の生活指導は適切である。 (言葉遣い・ふるまい・交通マナー・身だしなみ) 今年度【生徒：90.1% 保護者：82.7% 教職員：70.5%】 昨年度【生徒：87.6% 保護者：81.5% 教職員：84.2%】 	<ul style="list-style-type: none"> ○1・2年生がICT端末を利用して生活時間調査を行っていることで回収率が上がった。その結果をもとに担任が面談を行い、学習だけでなく生活全般についてアドバイスを行い基本的生活習慣の確立を図ることに努めた。 △学校や社会のルールについて、生徒は全般的に守っているが、服装、身だしなみについて改善が必要である。生徒部が担当ではあるが教職員全体で対応していきたい。頭ごなしの指導ではなく、よりよい生徒との関わり方の中で改善を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●あまり厳しくしすぎることが必要だとは思えないが、場に応じたふるまいができるようにすることが大切である。 ●あいさつをはじめとし生活の場面での様々な場面で指導が必要な生徒については、そのような行動になる背景を理解する必要がある。 ●規則やルールを守らせることと同時に多様性を受容できる力を鍛えることも必要である。

重点目標以外で評価を求めた項目

	令和5年度の取組	評価指標【肯定的評価の割合】	自己評価及び改善策 (○…できている ○…改善が必要な面はあるが概ねできている △…特に改善が必要)	学校運営協議会の評価・意見
情報発信の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●ホームページ ●緊急メール ●Google Workspace の活用 ●学校紹介動画配信 ●学年保護者集会動画配信 	<ul style="list-style-type: none"> ●本校の情報発信は適切である。(ホームページ、学校通信「あかやま」、学年通信、クラス通信、各種「紙」によるお知らせ、緊急メール、Google Classroom) 今年度【生徒：84.5% 保護者：81.5% 教職員：84.1%】 昨年度【生徒：77.9% 保護者：77.5% 教職員：80.7%】 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校ホームページについて、昨年度より内容や更新のペースなど改善が図られたが、さらに充実するように校内の連携体制を確かなものとしたい。昨年度に引き続きPTA広報委員会の活動と連携し掲載内容の充実をはかることができた。 ○Google Workspace for Educationを活用して生徒への情報提供が進んできた。次年度は全校がICT端末を持つことになる。より一層効果的な情報提供のかたちを作っていきたい。 △令和7年度より、入学選抜の方法が変更になる。これまで行ってきた学校案内パンフレットや学校紹介動画について見直しを行い、学校の魅力が伝わる効果的な生徒募集につなげたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●高校生活を楽しく姿を伝えることで保護者も喜ぶし、生徒募集の面でも効果があるように思う。 ●中学生が進路を決定する時に、何を基準に選んでいるかを調査する必要がある。
総合評価		<ul style="list-style-type: none"> ●本校に入学して良かったと思う。 今年度【生徒：87.7% 保護者：92.2%】 昨年度【生徒：80.1% 保護者：89.7%】 		<ul style="list-style-type: none"> ●「入学して良かった」と思っていない生徒について、その理由を探りケアする必要がある。